

重度障害者の 生涯学習支援

～生活介護事業所「ゆず」
での取り組み～

株式会社 CMU HOLDINGS 学習支援員
小藺妃路子・空岡 和代

生活介護事業所への訪問支援開始（2022年8月～）

事業所の職員と一緒に相談をしながら

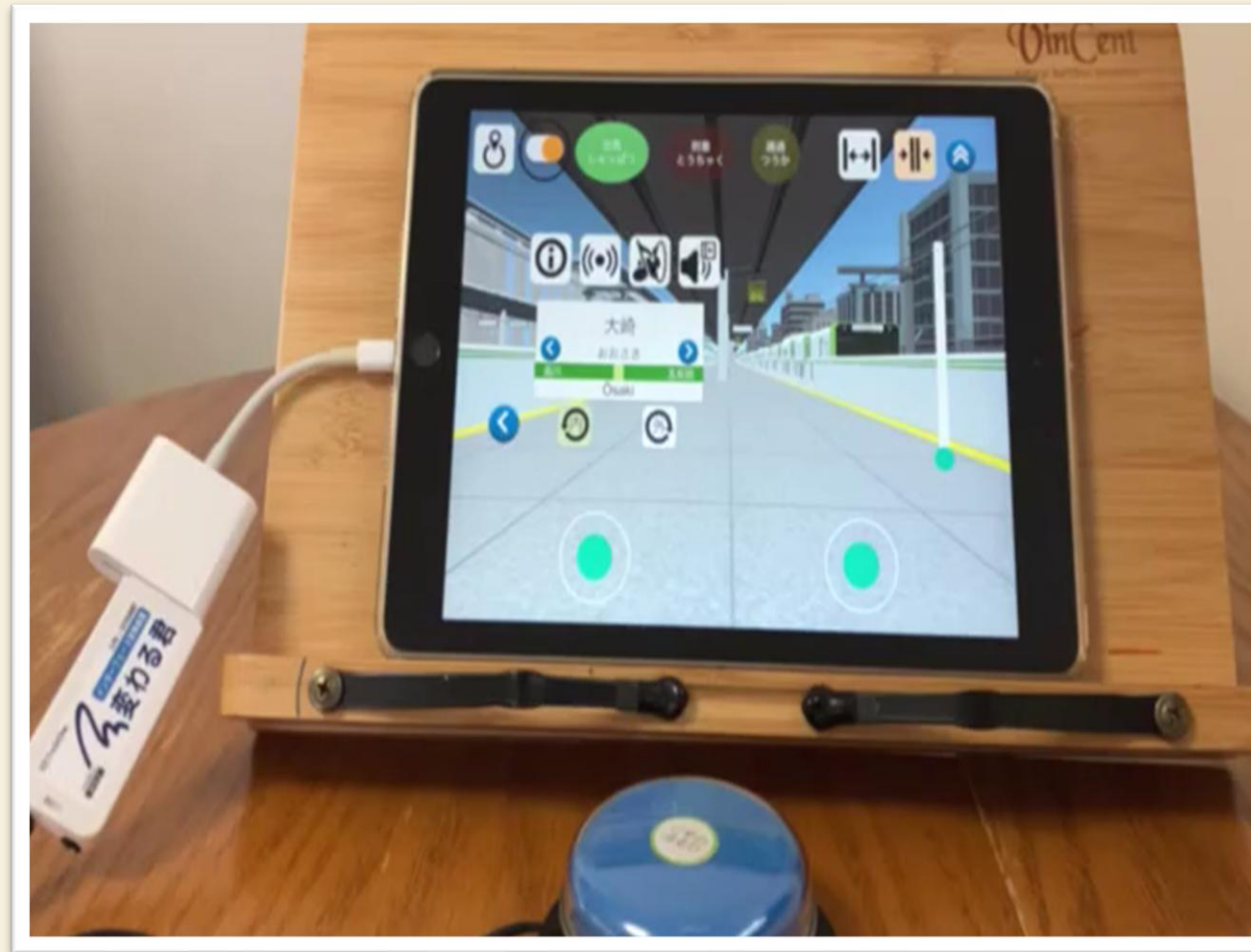
- ・学習者や職員のニーズの確認
- ・支援の内容
- ・学習者の身体状況や障害特性への配慮



学校で身に付けた力を活かして

- ・学習態勢
- ・スイッチや機器
- ・興味・関心

スイッチやiPad等の活用



iPadのアクセシビリティ機能を利用し、スイッチを押してアプリを操作できるように設定

ご本人に合うスイッチを探す

- 形や圧力など、様々なスイッチがある
- 学習者の方の身体の状態・動きに合わせて、使いやすいスイッチを選定



社会福祉法人 あいの樹 生活介護事業所 「ゆず」 （武蔵村山市）

- 対象者 重症心身障害者（医療的ケアがある方も通所可能）
- 定員 10名
- 活動内容 入浴・音楽・製作・運動・リハビリ
- 基本方針
重度障害者が1日でも長く愛する家族と一緒に在宅で生活できるよう支援をしたいと願い、生活全般をサポートすることを目的としている

➤ 月2回、2人体制で訪問支援

事業所職員の思い(支援開始時)

- ・自発語がない人も何らかの方法で表現できるように**コミュニケーション支援**をしたい。
- ・日々の支援は、入浴などの生活ケアが中心になってしまう。
- ・スイッチやICT機器を使って、学習者が**主体的に活動できる場面**を作りたい。
- ・一人一人、どんなスイッチが有効なのか分からない。
- ・どんな機器をそろえればいいのか、どこで購入すればいいのか、相談先がなくて困っている。

支援のねらい

<大きなねらい>

- (1)一人一人の興味・関心を探り、主体的に活動を楽しめるようにする。
- (2)一人一人に合うスイッチやICT機器、教材を探し、興味・関心を広げる。

<一人一人の状態に合わせて>

- iPad(アクセシビリティ)やスイッチを使って
- スイッチで動く教材や玩具を使って
 - 因果関係の理解を促す。
 - 主体的に活動できる場面を作る。
 - 興味・関心を広げ、楽しむ時間を作る。
 - コミュニケーション支援を図る。
 - 自分で選択する場面を作る。

<具体的な活動内容>

- ジョイスティックスイッチを使って、リモコンバスを操作
- iPadアプリ(音楽を聞く、楽器演奏、絵を描くなど)を使った活動
- スイッチを自分で操作し、好きな音楽を聞く
- スイッチを使って、ボーリング等の活動を楽しむ
- スイッチを使って、教材や玩具を操作する

事例1:Mさん

<状態像>

- ・言語表出は難しい。
- ・音楽が好き。
- ・手を丸める、手を組む、手で触る等の動きができる。
- ・周りの音や話し声をよく聞いている。

<支援のねらい>

- ・スイッチを押すと、光や音が出ることが分かる。
- ・自分でスイッチを押して、音の変化などを楽しむ。

Mさんの変化

<昨年度まで>

- iPadのアプリを提示すると付き合ってくれるが、眉間にしわを寄せ、硬い表情。
- スイッチで動く玩具やロボットは、柔らかい表情でスイッチを押すことができた。
- 自分からはあまりスイッチを押したがない。「スイッチを押して欲しい？」と声をかけると、「うんうん」とうなづく。
- 周りから聞こえてくる音楽や話し声をじっと聞いて楽しんでいる。

<今年度>

- 手の平にスペックスイッチをつける。自分のタイミングでスイッチを押し、光の色が変わったり、音楽が聞こえたりするのが分かる。
- 自分から「お～」「あ～」と支援員に声をかけてくる。スイッチを上手に押せていることをアピール。支援員が見ていないとさらに声をかけてくる。
- スイッチで動く玩具は、はりきってスイッチを押すことが増えてきた。
- スイッチを使って、YouTubeで好きな曲をスタートさせる練習を始めた。

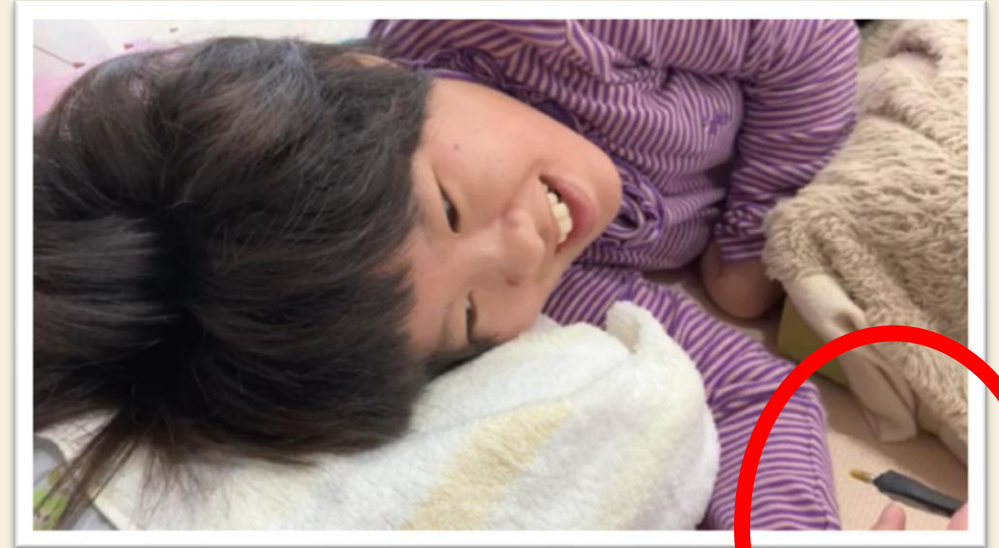
スペックスイッチを使って、楽器玩具を操作



事例2：Kさん

<状態像>

- ・言語表出は難しいが、言語理解は良い。
- ・「やりたい」という意欲が高い。
- ・音楽が好き。
- ・指先を動かすことができる。



<支援のねらい>

- ・自分でスイッチを操作して、好きな音楽を聞く。

Kさんの変化

<昨年度まで>

- 「スイッチを押したい」「スイッチを使いたい」という強い意欲を示す。
- iPadの中の楽器アプリ等には、関心を示さず。
- アプリ「ぼいすぶっく」にアイドルの動画を入れて提示すると興味を示す。

<今年度>

- 曲が終わったら、スイッチを押すと次の曲が始まることを理解し、自分で操作する。
- スイッチの押し方:手の甲⇒手の平⇒指先でつまむ。
- 画面を見たくて腹ばいになったり、スイッチを押そうと手を伸ばしたり
主体的な動きが、身体面でも見られるようになった。

タッチスイッチを使って、音楽を聞く



事業所・家庭との連携

Kさんの変化・様子を職員が家庭に伝える



お母様が支援の様子を見学



家庭でも同じ環境を作りたい



アプリやスイッチ等の機器を説明、購入してもらう



家庭でも、自分でiPadアプリを操作する環境に

娘の可能性を
見つけてもらえて
うれしかった



事例3：Hさん

<状態像>

- ・言語表出は難しいが、言語理解はよい。
- ・周りの状況をよく見て、視線を向けてアピールする。
- ・示したものの多くに興味をもって取り組む。
- ・腕を動かして自分の手でiPadに触れる。



<支援のねらい>

- ・iPadのアプリでできることを通して、スタッフさんとのふれあいを豊かにする。
- ・得意な手の動きをiPadの操作にいかして、「できた」経験を増やす。

Hさんの変化

<昨年度まで>

- 支援員に慣れるまで、支援中に緊張していることが多い。
- ジョイスティックスイッチで動かすリモコンバスや、スイッチを押してボールを動かすボウリングをスタッフさんも一緒に楽しむ。
- iPadで流れるピアノの曲が好き。

<今年度>

- 支援員が見えると、視線でiPadで活動することへの期待感をアピールする。
- iPadの操作: スイッチ→手の側面や手の甲。
- iPadを使った活動を通して、できた喜びを周りのスタッフの皆さんと共有してお互いに笑顔になっている。

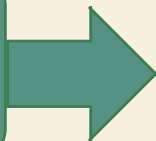
アプリのお絵かきでアピールする



2年半の取り組みから ～学習者の変化～

- 好きなこと、興味のあることが見えてきた方
- 表情や声などの表出の幅が広がった方
- 「自分でできた！」「もっとやりたい！」という表情を見せてくれた方
- 他の人の活動に興味を示し、自分も挑戦してみた方
- 職員さんとの関わりや声かけが、やる気につながっている方
- 以前使った玩具を覚えていて、小さなスイッチを押し、操作して見せた方

支援員や職員にとって
学習者の新たな一面を知る機会に



その人の理解が深まる

2年半の取り組みから ～事業所職員の变化～

- 活動の中で、学習者ができるようになったことを、家庭に伝えてくれている。
(複数の保護者が支援の様子を見学)
- 活動の中で、機器を使って、サポートしてくれるようになった。
- 事業所のiPadに、支援員が使ったアプリを入れ、支援員がいない時間にも取り組むことが増えた。
- iPadのアプリを使って、朝の会を行うようになった。
- 「この方は、このゲームが好きなので、自分で操作できるように設定できないか」「この方が使えるアプリやスイッチはどんな物があるか」「この方のこの反応はどんな意味があるのか」等、職員からの質問が多くなった。
- 事業所職員が、学習者の興味や関心等を新たに知るようになった。

まとめ

- 学習者の皆さんが、支援の時間を楽しみにしてくれている。毎回笑顔で迎えてもらえることが、支援員の原動力になっている。
- スイッチ、iPad、教材などを使うことで、主体的な動きを引き出しやすくなる。興味・関心を広げたり、操作性が向上したりすることは、すぐに大きな変化は生じないが、経験を積み重ねることで、少しずつできることが増え、変化が生じている。
- 事業所職員の協力的で前向きな姿勢が、学習者にも伝わり、取り組みへの意欲や積極性に繋がっている。
- 他の人の活動に興味を示す、他の人と一緒にやってみる、職員や他の人に認めてもらおうとする等、集団での活動の良さが感じられる場面が多い。
- 重度障害の方々は、その日の体調が姿勢や意欲、集中力などに大きく影響する。その日の様子だけで判断せず、複数回の様子を捉え、判断する必要がある。
- 重度障害の方々が状況を認識して行動に示すまでには一定の時間が必要であることを常に意識し、支援員の時間軸で急かさない支援をすることが大切だと感じている。
- 生活介護事業所での職員の仕事は、生活支援や身体、医療ケアが中心になる。その環境の中、重度障害の方々への生涯学習を持続するためには、事業所の職員プラス支援員の存在が大変有効であると感じている。